

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記入）】			
事業所番号	3591000041		
法人名	株式会社コウケンパートナーズ		
事業所名	グループホームアクア		
所在地	山口県光市木園町1-4-5		
自己評価作成日	令和2年11月17日	評価結果市町受理日	令和3年5月31日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
聞き取り調査実施日	令和3年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは街の中心地にあり、医療・買い物と利便性のよい場所にあります。さらに、自然に恵まれ、ホームの裏には島田川があり、河川では四季折々の野鳥や魚の姿を目にすることができます。また、開設当初からの職員が数多く在籍し、利用者様に質の高いサービスを提供するという目標のもと、チーム一丸となって取り組んでいます。利用者様やご家族様とも良好な信頼関係を構築しています。当施設はAED設置救急ステーションの認定を受けており、地域向けのホーム便りを作成して小中学校に掲示していただき、救急ステーションであることを広く周知し、地域への貢献を目指しています。また、認知症への理解を深めていただくため、認知症ケア専門士の資格を持つ職員も在籍しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員一人ひとりのサービス向上への意欲が高く、常に自らのケア目標を持って取り組んでおられます。今年度は新型コロナウイルスの影響もあって、内外の研修で学ばれ、事業所全体で感染症予防対策を徹底しておられます。ヒヤリハット報告を調理担当職員を含めた全職員に回覧して情報を共有され、ミーティング時に検討されて再発防止に努められている他、毎年職員による上級救命講習の復命報告や外部講師の研修を受講され、事故の予防と対応に取り組んでおられます。定期的な防災訓練を実施され、訓練後には課題や問題点を話し合われて、解決策を検討しておられる他、非常時の対策として、非常食、非常時持ち出し袋、ダンボール型の簡易ベッドを用意されるなど、常に災害への備えを怠らないように努めておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	仕事に入る前に理念を必ず確認し、ご家族様や地域向けのホーム便りにも理念を掲載している。 また、自分たちが意識を持ち、理念の実践につなげている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、玄関、事務所、廊下、ホールの他、タイムカードの横にも掲示し、職員は業務開始前に確認している。家族向けと地域向けのホーム便りにも理念を掲載して周知を図っている。毎朝の申し送りで唱和したり、年度初めのミーティングで理念を再確認するなど、職員は普段から理念を意識して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍においても地域とのつながりを保ち、自治会の通報訓練に参加したり、台風で避難した時は自治会と連絡を取り合うなどしている。	自治会に加入し、自治会館の掃除、自主防災会の通報訓練に職員が参加している。2カ月毎に地域向けのホーム便りを地域の小、中学校や関係機関、運営推進会議のメンバーに配布している。例年であれば地域行事への参加やボランティアの訪問があるが、新型コロナウイルス感染症の影響で交流を中止している。施設前の川土手を散歩中に近所の人と挨拶を交わしたり、犬を散歩中の住民が事業所に立ち寄って会話したり、家族から果物の差し入れがあるなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの様子が分かるよう、地域向けのホーム便りを作成し、地域の小学校や中学校に掲示していただいている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員ミーティングの際にサービス評価項目ガイド集に基づいて勉強会を行い、それぞれの項目について積極的に意見交換を行っている。	管理者は、ミーティング時に評価の意義について、職員に説明している。職員は、2回のミーティングで各項目ごとに話し合い、管理者が意見をまとめている。評価を職員の業務に対する意識付けと振り返りと捉えている。評価を通して、調理担当職員を含めた全職員がヒヤリハットの事例を共有し、対応策を考えて事故防止と予防につなげているなど、評価を活かして改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため開催は難しい状態だが、運営推進会議の参加者には毎回議題についての資料を作成し、議事録を送付している。	新型コロナウイルス感染症の状況をみながら、職員間で開催について話し合い、この1年間は参加者に資料を配布し、電話で意見をもらい、議事録を参加者や家族に送付する文書開催の形で行っている。会議の内容は令和2年度の行事予定、事業所理念や方針、利用者状況、豪雨時の避難実施報告、新型コロナ感染症対策、消防訓練報告等をテーマとした資料や、職員間で話し合った身体拘束等の適正化検討委員会の議事録、ホーム便りを送付している。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には市の職員の方にも参加していただき、意見交換を行っている。また困難な事例についても相談し、意見を頂くなど協力関係を構築している。	市担当者とは、運営推進会議時の他、直接出向いて相談して助言を得たり、電話やメールで情報交換を行っているなど、協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、認知症の見守りネットワークで協力するなど、日頃から連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を施設の内外で行い、職員全員が理解をし、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また身体拘束適正化委員会の議事録を作成し、運営推進会議の参加者に送付している。	「身体拘束適正化の為の指針」「身体拘束と行動制限についての取り扱い要領」を常備している。職員は、身体拘束等の適正化検討委員会で話し合うと共に内部研修やリモート研修で学び、身体拘束しないケアに努めている。スピーチロックについては、職員間で話し合い、管理者が指導や助言をしている。外に出たい利用者とは、職員と一緒に散歩したり、日なたぼっこや外気浴に誘うなど、気分転換を図っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての外部研修に参加し、施設でも勉強会を行うことによって職員間の理解を深め、虐待の未然防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について、定期的に勉強会を行っている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際には重要事項説明書などについての説明を行い、契約内容をご理解いただいたうえで、疑問点があれば対応できるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談や苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時にご家族様に説明を行っている。運営推進会議にも出席していただき、意見や要望を伺い、その都度対応を行っている。	相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め、利用者や家族に契約時に説明している。家族からは面会時、利用料支払い時、運営推進会議時、電話、ラインなどで意見や要望を聞いている。事業所便り送付時には、担当職員が利用者の様子を写真入りで報告して、家族が意見を言いやすい関係づくりに努めている。自宅で愛読していた新聞をとったり、なるべく歩かせてほしいとの要望には車椅子を使わずに自力歩行する機会を増やしたり、タブレットを購入してリモート面会に対応するなど、意見や要望を反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	人員の補充の相談や業務に関する物品の購入等、職員の訴えには可能な限り迅速に対応してしている。	管理者は毎月のミーティングや朝夕の申し送り時に職員からの意見や要望を聞いている。他、日常業務の中でも職員に直接声をかけるなど、意見を言いやすい関係づくりをしている。職員からは福祉用具や機材の購入等の要望があり、運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常に施設環境を把握し、迅速な対応をしている。また職員の健康診断を定期的に行い、職員の健康づくりにつとめている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一年間の研修計画をたて、職員が希望する研修に参加できるよう取り組んでいる。参加者は研修報告を行い、情報をフィードバックしている。	外部研修は、年度末に翌年の研修の情報を伝え、事前に職員の希望を把握したうえで、勤務の一環として受講の機会を提供している。受講者はミーティングで復命報告をしている。内部研修は年間計画をたて、その都度必要な旬の内容に変更しながら、(理念について、上級救命講習、災害時の対応、感染予防、高齢者の虐待、感染症対策自主点検チェックリスト、身体拘束廃止、成年後見制度などをテーマに)管理者や職員が講師となって実施している。外部講師を招いて、新型コロナウイルス感染症の流行をふまえた救急蘇生法について学んでいる。事業所はAED設置ステーションの認可を受けている。職員の資格取得に対しては、勤務体制の変更に配慮している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のためGH協議会は開催できないが、市内の別事業所とお互いに相談に応じるなどして、連携をとっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センターシートを利用してアセスメントを行い、本人にとってより良い支援が行えるよう努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所に先立ってご家族様の思いを受け止めて、職員の間で情報を共有し、安心していただけるよう心掛けている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個々の状況を把握し、問題になる事柄に優先順位を付け、必要に応じて変更しながら、ひとつひとつ問題を解決していけるようつとめている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人のできる事を活かしながら、それに対する感謝の思いを示すことによってやりがいを感じていただき、ともに生活する関係を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ご家族様に入居者様の状態をお知らせするお便りを出している。コロナ禍のため、タブレットを利用したリモート通話でご家族様とお話ができるよう支援を行っている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前からの知人の方と年賀状や手紙のやり取りを続けたり、個人所有の携帯電話で自由に連絡を取るなど、関係の継続ができています。	新型コロナウイルス感染症の影響でリモート面会になっているが、家族の希望に合わせた時間で話す事ができ、好評である。年賀状や手紙の代読や代筆をしたり、携帯電話の支援をしている。事業所として、利用者の希望にそって、河津桜を見に行くなど、馴染みの人や場所との関係が継続できるように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ソーシャルディスタンスを保ちながらホールで楽しい時間を共有したり、入居者様同士で助け合いや出来ない事へのフォローを行っている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方のご家族様と連絡を取り合って近況報告を行ったり、ボランティアに来ていただいたりした。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関りの中で利用者様の様子などを連絡ノートや経過記録に記入し、全職員で共有して思いや意向の把握に努めている。ミーティングや申し送りの場で職員同士の意見交換を行い、その方にあったケアプランを作成している。	入居時に家族が記入した情報を参考に作成した、基本情報やセンター方式シートを活用している他、日々の関わりの中で利用者の言葉や様子を経過記録や連絡ノートに記入して全職員で共有して、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。経過記録は、特記事項（次に繋がる思いや意向）等を色分けして状況がわかりやすいように工夫している。把握が困難な場合は、本人の表情や仕草から読み取ったり、家族からの聞き取りや職員間で話し合って本人本位に検討している。		
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や親せきの方から話を伺ったり、利用者様の様子を観察して情報を得る事により、本人にあったサービス提供を行い、その人らしい暮らし方や力が発揮できるよう支援している。			
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の介護記録を記入し、それを常に確認する事により、小さな変化を見逃さないよう心掛けている。勤務に入る前には必ず申し送りを行い、特変があれば詳しく説明する事で状態が把握できるようにしている。			
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	三ヶ月に一度、ご家族様を交えた担当者会議を電話にて開催し、月一回のカンファレンスで課題やケアの方法について職員で話し合いを行っている。	管理者、計画作成担当者、担当職員を中心に毎月カンファレンスを行い、家族の意向を確認した上で、主治医、看護師、薬剤師などの意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月ごとに担当者会議を開催し、モニタリングと計画の見直しを行っている。利用者の状態が変化したときは、その都度見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録表や介護記録を記入することによって情報の共有化を図るとともに、問題点や気づきがあれば必ず記録を残すようにしている。個別のファイルを作成し、病歴や服薬状況などを把握してリスクのチェックを行っている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍で施設への立ち入りが制限されているため、ご家族様との触れ合いの機会を設けるため、タブレットを購入し、通話アプリを使用するなどして対応している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	台風で避難した時に自治会長に連絡をとり、入居者様の避難先について把握していただくなどして、情報を共有し、協働できるよう対応している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居にあたり、ご本人やご家族様にかかりつけ医の意向を確認している。夜間等の緊急時は医療機関と連携し、新たに月二回の訪問診療で利用者様の健康管理を行っている。	事業所の協力医療機関の他、利用者や家族が希望する医療機関がかかりつけ医となっている。月2回の訪問診療を受けている利用者もいるが、協力医療機関や他科へは主に職員が受診支援を行い、必要な時は家族に同行を依頼している。受診後は電話などで家族に報告している。希望者は訪問歯科診療を受ける事ができる。夜間や緊急時は夜間対応スタッフの協力を得ながら管理者に連絡し、各医療機関と連携して適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設の看護師による健康指導や相談など、利用者様やご家族様が安心できるサービスの提供を行っている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供書の作成・提供だけでなく、病院との電話連絡で入院中の状態を把握し、カンファレンスに同席してご家族様との情報の共有を行ったうえで、退院後のケアに向けて支援計画をたてている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	常時医療行為が必要になるまで、可能な限り本人様やご家族様の希望に沿った支援ができるよう、その都度意向の把握に努め、重度化した場合は協力医療機関と連携できるような支援に取り組んでいる。	契約時に重度化や終末期に向けて事業所のできる対応について、家族に説明している。実際に重度化した場合は、利用者や家族の意向をふまえた上で、かかりつけ医や職員と相談し、医療機関や他施設への移設を含めて、全員で方針を決めて共有し支援に努めている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ちょっとした気づきをヒヤリハットにあげ、事故報告の事例をまとめて事故につながらないよう、申し送りやミーティングなどを利用して、全職員で情報を共有し、新たな事故に繋がらないよう発生防止につとめている。	対応した職員が当日の職員と検討した上で、ヒヤリハット報告書、事故報告書に当日の状況、原因、対策を記載し、他の職員には申し送りで報告すると共に、調理担当職員も含めて全職員に回覧している。毎月のミーティング時には再度職員間で検討し、再発防止に努めている。事故発生時の備えに対しては、毎年上級救命講習に参加した職員が心肺蘇生、AEDの使用方法を復命報告したり、外部講師に新型コロナウイルス感染症の流行をふまえた救急蘇生法の講習を受けている。	・全職員による応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自治会とは通報訓練を行うなどして連携をはかっている。災害時の避難は年に2回避難訓練を行い、実際に避難する場所への移動訓練や配車表の作成を行っている。	事業所内で年に2回、利用者も参加して、消火訓練、避難訓練、通報訓練を実施している。昼間と夜間想定で行ったり、職員が地域住民役として利用者の見守りをする等工夫している。台風時には法人の施設に自主避難して1泊している。訓練後には職員間で反省会を行い、歩行困難者の車椅子の置き場所の確認や、避難時のわかりやすい言葉かけの確認等を話し合っている。各災害マニュアルは、訓練毎に必要な事項を書き直しており、職員は周知している。地域の自主防災会の通報訓練に参加する等地域との協力体制を築いている。非常時の対策として、非常食、救急セット、レジャーシート、段ボール製の簡易ベッド、家族連絡先等を入れたリュックなどを用意して災害に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人権を尊重し、プライバシーを損なわないような声掛けを行っている。また、個人の記録等も他者の目に触れないよう、取り扱いに注意している。	内部研修やミーティングでの話し合いを通して理解し、職員は利用者の自尊心を傷つけず、プライバシーを損ねない言葉遣いや態度に気をつけている。入浴時や排泄時には利用者一人ひとりに合わせた声のトーンや口調、声のかけ方に配慮している。個人記録は、保管場所に留意しており、守秘義務の遵守にも注意を払っている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の身振りやしぐさなどを通して、本人が何をしたいかをくみ取るよう努力している。また、職員の間で利用者様の個々のシグナルについて共通した認識を持つよう気を付けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に応じて趣味の時間を持ったり、必要であれば水分補給や軽食を摂るなど、入居者様のペースに応じた生活をしていただいている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常着の更衣の際、自己決定できない方はスタッフと一緒に服を選び更衣していただいている。また、整髪できない方は職員が手伝うなどしている。更衣時にお気に入りのアクセサリーをつけるなど、おしゃれができるよう支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の前は配膳を手伝っていただいている。コロナ禍のため年に一度のご家族様との食事会が開催できなかったため、代わりに普段と違うメニューを提供したり、テイクアウトのお弁当を注文し食べていただくなど、工夫をした。	職員が利用者の希望や好みを取り入れた献立をたて、朝食は夜勤職員が、昼食、夕食はシルバー人材センターの調理担当職員が手づくりしている。利用者は配膳、テーブル拭き、利用者への食事の声かけなどできる事を職員と一緒にしている。利用者の状態に合わせて、キザミ、トロミなど形態の工夫をしている。利用者と職員は、同じテーブルを囲んでリラクゼーションできる音楽を聴きながら、一緒に食べている。行事食(おせち、ひな祭り、花見寿司、クリスマスなど)、テイクアウトの焼き肉弁当、誕生会のケーキなど食事を楽しむことのできる支援を行っている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーや飲水量を記録し、個々の食事量を把握するよう努めている。嚥下不良の方には水分にとろみをつけ、刻み食やミキサー食、お粥を提供するなど工夫している。また、水分量が少ない方には本人が好む飲み物を提供している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを実践して、清潔が保てるようにしている。自分で出来ない方は、スタッフの介助により口腔ケアを行っている。義歯を装着している方は、義歯の洗浄も行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用して排泄パターンを把握し、声掛けやトイレ誘導を行っている。夜間にオムツを使用している方も日中はリハビリパンツを使用し、なるべくトイレで排泄できるよう支援を行っている。	排泄チェック表を作り、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。誘導のタイミングは、利用者の表情やそぶりなどのサインに気を付けている。排泄時は羞恥心を感じさせないように声かけに配慮し、車椅子の利用者には、職員二人で介助してトイレでの排泄を促したり、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に乳製品を提供するなどして、なるべく自然に排泄できるよう促している。また、処方された下剤を使用する場合は個々の状態に応じて調整を行っている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴希望があった場合、可能な限り対応している。本人の健康状態に応じて、入浴ができない時は全身清拭などを行っている。また入浴剤を使用する、利用者様にとっては入浴後に化粧水を使用するなどしている。	入浴は日曜日以外の毎日、13時30分から15時まで可能で、週に3回程度は、利用者一人ひとりの希望に応じて入浴を楽しめるように支援している。体調に応じてシャワー浴、部分浴、足浴、清拭などを行っている。入浴剤や柚子湯を楽しんだり、入浴後にお気に入りの化粧水をつけたり、職員が利用者の顔のマッサージをしている。入浴をしたくない利用者には、タイミングをずらしたり、職員を変えて声かけするなど工夫している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なかなか入眠できない利用者様にはリラックスして入眠できるよう話し相手をつとめるなど、個々の状況に合わせて対応を行っている。また、日中も利用者様の体調に応じ、休息を設けている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様ごとに服薬ファイルを作成し、投薬の変更があった場合は必ずスタッフ間で内容を伝達するよう徹底している。服薬の際にはスタッフが付き添い、二重チェックで誤薬防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体操・風船バレー・カラオケなど個々が楽しめるよう支援を行っている。花の好きな方は居室に花を飾り、水替えを行っている。また配膳・洗濯干し・洗濯たたみなど自分のできることをして、日々の生活を楽しめるようにしている。	テレビ(歌番組、時代劇、ニュース、スポーツ番組など)、DVD視聴(歌)、新聞や雑誌を読む、書き初め、かるた、百人一首、クイズ、しりとり、季節の飾り作り、刺し子、ラジオ体操、口腔体操、ワッハッハ体操、足踏み体操、ボール投げ、風船バレー、利用者のキーボード演奏で歌を歌う、カラオケ、事業所の季節行事(豆まき、ひな祭り、七夕会、敬老会、クリスマスなど)、誕生会など楽しみごとの支援をしている。洗濯物干し、洗濯物たたみ、テーブル拭き、配膳、花の水替えなどの活躍できる場面づくりをして、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	密を避け、コロナ対策を行ったうえで外出ができるよう支援している。	施設裏の川沿いの散歩や日なたぼっこ、外気浴、花見(桜、あじさい、コスモス、もみじなど)、利用者の希望で河津桜を見に行っている。今年度は新型コロナの影響で、家族との外出も含めて、出かける機会が少なくなっている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設で管理を行っているが、初詣の時に財布を持ってお賽銭を使っていたなどなどの機会を設けている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて自ら電話ができるように支援している。年賀状や手紙のやり取りもできるように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースに医療施設用の空気清浄機を設置している。玄関などに季節の花を飾ったり、ホールに接した厨房で調理を行うことによって料理の様子や匂いを楽しんでいただくなど、五感を刺激することによって日常生活を楽しめるようこころがけている。	玄関の大きな花瓶には季節の花が生けてあり、風景写真や季節の物が飾ってある。大きな窓から自然光が差し込む明るいリビングには、テーブルやイスがあり、新しく購入した大型テレビの前には新しい大きなソファを配置し、利用者は思い思いの場所で過ごすことができる。対面式のキッチンからは、調理する人の姿が見え、音や匂いなど生活感を感じることができる。壁面には季節の壁飾りや献立表、習字の作品、行事の写真などを掲示している。湿度や温度、換気にも配慮して、利用者が居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内の各所に椅子やソファを設置し、利用者様の気分に合わせてくつろげる場所や談笑用のスペースを提供している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの家具や写真、お気に入りのぬいぐるみを置くなどして、個人の好みに応じて過ごしやすい空間になるよう工夫している。	机、イス、テーブル、タンス、整理棚、三段ボックス、衣装掛け、ぬいぐるみ、キーボード、化粧品、本、雑誌、習字道具セットなど使い慣れたものや好みの物を持ち込み、壁には誕生日の色紙、孫からの手紙、家族の写真、カレンダーや自分の作品、職員が持参した花を飾るなど居心地良く過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様にわかりやすいようトイレなどの表示を工夫して、自立の為の支援を行っている。また、利用者様の身体機能の状況に応じて、歩行器や車椅子、シルバーカーを使用していただいている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム アクア

作成日: 令和 3 年 5 月 30 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35 (15)	現在、定期的に応急手当等の訓練を行っている。4月から新しい職員が入社した。新しい職員の訓練がまだ乏しい。	全職員による応急手当、初期対応の定期的な訓練を行い新しい職員もレベルアップ出来るようになる。	年2回は外部講師やホーム内の上級救命講習受講者による講習の機会を設ける。	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。